

居ル、其結果トシテ抵當權ト質權トヲ併セテ登記ノ順位ニ依テ其權利ノ先後ガ定マル、例ヘバ甲ノ抵當權ガ第一ニ登記シテアル、乙ノ質權ガ第二ニ登記シテアル、丙ノ抵當權ガ第三ニ登記シテアル、丁ノ質權ガ第四ニ登記シテアルト云フヤウナ場合ニハ第一、抵當權、第二、質權、第三、抵當權、第四、質權ト云フヤウナ鹽梅ニ權利ガ行ハルル、總テ登記ノ順序ニ依ル

最後ニ抵當權相互ノ間ニ於テハ全ク登記ノ順位ニ依ルノデ、早ク登記シタ權利ガ先ニ行ハルル、如何ナル抵當權ト雖モ苟モ登記シテアル以上ハ普通ノ債權ヨリハ先ニ行ハルル、併シ同ジク登記シテアル抵當權ノ中ニ於テハ登記ノ順序ニ依ッテ其先後ガ定マルト云フコトニ爲ッテ居ル

以上ヲ以テ優先權ノ御話ヲ概略了リマシタ、是ヨリ追及權ノ御話ヲ致シマス、追及權ト云フモノハ抵當權設定者ガ其抵當不動産ヲ他人ニ讓渡シタ場合ニ於テ抵當權者ガ其權利ヲ讓受人ニ對シテ行フコトヲ得ルヲ謂フ、一ツノ例ヲ以テ申スト私ガ甲ナル者ニ私ノ所有ニ屬スル不動産ヲ抵當ニ入レタ、其後乙ナル者ニ私ガ其不動産ノ所有權ヲ讓渡シタ、此場合ニ於テ甲ハ私ニ對スル如ク乙

ニ對シテモ其抵當權ヲ行フコトヲ得ルト云ラノガ、是ガ追及權デアアル、原則トシテハ是ハ疑ノナイコトデアアル、私ガ權利ノ全部ヲ讓渡シタトキデモ抵當權者タル甲ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ルガ故ニ況ヤ權利ノ一部ヲ讓渡シタ者ニ對シテハ無論抵當權者ハ其抵當權ヲ行フコトヲ得ルノデアアル、例ヘバ私ガ乙ナル者ニ私ノ所有地ノ上ニ地上權ヲ設定シタ、永小作權ヲ設定シタ、若クハ地役權ヲ設定シタ、此場合ニ於テ抵當權者タル甲ハ其地上權者、永小作人又ハ地役權者ニ對シテ矢張其抵當權ヲ行フコトヲ得ルノデアアル、苟モ其抵當權ノ登記ガ地役權、永小作權、地上權等ノ登記ヨリモ先ニ行ハレタナラバ抵當權者ノ眼ニハ地上權等ハ全ク設定セラレナカッタノト同ジコトデアアル、其結果トシテ債務者ガ履行ヲ爲サザルニ當ッテハ抵當權者ハ其不動産ヲ賣却スルコトガ出來ル、サウシテ賣却ヲ爲スニ當ッテハ地上權、永小作權、地役權等ガナイモノトシテ之ヲ賣ルコトガ出來ル、詳シク言ヘバ競賣ノ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルノデアッテ、其地上權其他ノ權利ヲ認ムル義務ハ毛頭ナイノデアアル、若シ是ガ抵當權設定前ニ存シテ居ッタナラバ——其前ニ既ニ登記シテアッタナラバ抵當權者ハ固ヨ



リ抵當權ノ作用トシテ其物ヲ賣ルコトガ出來ル、詳シク言ヘバ其物ノ所有權ヲ賣ルコトガ出來ル、ケレドモ地上權其他ノ支分權ハ依然トシテ存シテ居ルノデアル、隨テ實際ハ競賣ノ競落人ガ其レ等ノ權利ノ價ニ相當スルダケハ安ク買フコトニ爲ル、然ルニ只今ノ例ニ於テ抵當權ノ登記ノ後ニ此等ノ權利ノ登記ノアツタ場合ニハマルデ之ヲ無視シテサウシテ競賣ヲ爲スコトガ出來ル、是ガ即チ追及權ノ作用デアル

之ニ對スル一ツノ例外ハ賃借權デアル、是ハ二重ニ例外デアル、第一、賃借權ト云フモノハ物權デハナイ債權デアル、債權ハ當事者間ニ於テノミ效力ノアルモノデ、之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトハ出來ナイモノデアル、然ルニモ拘ハラズ唯リ不動産ノ賃借權ハ若シ之ヲ登記スルトキハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ及ボスコトガ出來ル、是ガ一ツノ例外デアル、併ナガラ是ハ抵當權ノミニ關スル例外デハナイ、所有者ニ對シテモ地上權者ニ對シテモ永小作人ニ對シテモ地役權者ニ對シテモ皆存シテ居ル所ノ例外デアル、  
今一ツノ例外ガ特ニ抵當權ニ關スルモノデアル、是ハ何デアルカ、一般ノ原則ヨ

リ言ヘバ抵當權設定ノ後ニ其目的物ニ關シテ如何ナル權利ガ發生シヤウトモ如何ナル權利ガ設定セラレヤウトモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトハ出來ヌ筈デアル、然ルニ唯リ賃借權ハ或條件ヲ以テ之ヲ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ルノデアル、其條件ハ二ツアルノデス、一ツハ民法ノ第六百二條ノ期間ヲ超エザルモノ、即チ山林ノ賃貸借ハ十年、其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年、建物ノ賃貸借ハ三年、此期間ヲ超エザル賃借權ハ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトガ出來ル、今一ツノ條件ハ抵當權者ヲ害セザルコトヲ要スル、第三百九十五條ノ但書ニアル、若シモ賃借權ガ抵當權者ニ損害ヲ及ボス場合ニ於テハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因ッテ其賃貸借契約ノ解除ヲ命ズルコトガ出來ル、此二ツノ條件ヲ以テハ賃借權ハ縱令抵當權登記ノ後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトガ出來ルノデアル、是ハ何故デアルカ、ソレハ抵當權ナルモノハ其目的物ノ代價ニ付テ優先權ヲ與ヘルモノデハアルケレドモ、物ノ占有ヲ奪フモノデハナイ、其目的物ハ依然トシテ抵當權設定者ノ占有ニ殘シテ置クベキモノデア、ル、ソレデコソ質權ヨリハ此方ガ便利デアル、然ルニ所有者ハ必ズシモ自ラ物ヲ



利用スルコトハ出來ヌ、土地ト雖モ自ラ之ヲ耕作スルト云フコトハ出來ヌ、自ラ  
其上ニ建物ヲ設ケルコトハ出來ヌト云フ場合ガアル、建物モ自ラ之ニ住フト云  
フコトハ出來ヌト云フ場合ガアル、此場合ニハ如何ニ之ヲ利用スルカト云フト  
詰リ他人ニ賃貸スルノ外ハナイ、田畑ナラバ之ヲ小作人ニ任シテ小作料ヲ取ル  
ノ外ハナイ、宅地ナラバ之ヲ人ニ貸シテ家ヲ建テシムルト云フノ外ハナイ、或ハ  
家ヲ建テ居ルナラバ其レニ人ヲ住ハス爲メニ貸スノ外ハナイ、サウセヌケレバ  
利用ガ出來ナイ、而シテ現今ノ日本ノ慣習カラ言ッタラバドウカ知リマセヌガ、段  
段權利思想ガ發達シテ來ル以上ハ他人ニ土地若クハ家屋ヲ貸スト云フ場合ニ  
一定ノ期限ヲ以テ之ヲ貸スニ非ザレハ高イ借賃ヲ出シテハ人ガ借リヌ、何時追  
出サルルカ知レヌト云フヤウナ條件デハ高クハ人ガ借リヌ、日本デモ權利思想  
ガ發達スレバ必ズサウ爲ル、故ニ山林ナラ十年、桐ヲ植エマシテモ五年ヤ十年經  
タスケレバ役ニ立タヌ、其他ノ土地ナラバ五年、建物ヲ建テルノニ五年デハ役ニ  
立タヌ位デアル、其位ノ期間ヲ以テセヌケレバ高イ借賃ヲ以テ借リル者ハナイ  
ト云フコトニ日本デモ爲ルダラウト思フ、ソレデ縱令不動産ガ抵當權ノ目的ニ

爲テ居ラウトモ所有者ニ於テ其不動産ノ利用ヲ爲スコトニ付テ何等ノ妨ヲモ  
爲シテハナラヌト云フ以上ハ此位ノ期間ヲ以テハ自由ニ賃貸借ヲ爲シ得ナケ  
レバナラヌ、ソレデナケレバ占有ヲ抵當權設定者ニ殘シテ置イタ甲斐ガナイ、故  
ニ苟モ抵當權者ニ損害ヲ及ボサザル限ハ、而シテ其意味ハ餘リ借賃ガ安クナケ  
レバト云フコトニ爲ル、餘リ借賃ガ安ケレバ必ズ抵當權ニ損害ヲ及ボス、ト云フ  
モノハ不動産ヲ賣ルトキニ安ク賣レル、故ニソレハ解除スルコトガ出來ルケレ  
ドモ、相當ノ借賃若クハ相當ノ借賃ヨリ高イ所ノ借賃ヲ以テ之ヲ貸シテアル以  
上ハソレヲ抵當權者ガ無視スルコトハ出來ヌト、斯ウ云フノデアル、唯期間ノ長  
キニ失スルモノ、即チ今申上ゲタ期間ヨリ長イモノハ是ハ現在ハ縱令抵當權者  
ヲ害スベキ性質ノモノデナイニシテモ、長イ中ニハ必ズ邪魔ニ爲ル、又借賃ハ縱  
令安クナイニシテモ餘リ長イト云フト其不動産ヲ賣ルニ當ッテ必ズ安ク賣レル  
ニ相違ナイ、ナゼナレバ買取ッタ人ハ自ラ其不動産ヲ利用シタイト云フ者モ澤山  
アル、ソレガ十五年二十年ト云フヤウナ長イ期間ヲ以テ貸シテアルト云フト其  
間ハ利用ガ出來ヌ、借賃ハ相當ノ借賃ガ取レルニシテモソレデハ買手ノ方デハ



全ク自由ノ不動産ヲ買フヨリモ安ク買ハナレバ合ハナイ、故ニ長イ期間デハイ  
カヌ短イ期間ナラ宜シイト云フコトニ爲ッテ居ル  
是ガ抵當權ガ追及權ヲ生ズルト云フ事柄デアリマスガ、是ヨリ進ンデ此追及權  
ニ法律ガ多少ノ制限ヲ加ヘテ居ル、其制限ノ御話ヲ致シマス  
是ハ一口ニ申スト、滌除權ノ事デアアル、即チ抵當權ノ目的物ガ第三者ニ移轉シタ  
場合ニ、第三者ガ或條件ノ下ニ於テ其抵當權ヲ消滅セシムルコトガ出來ルト云  
フコトデアアル、是ハ多クハ賣買ノ場合ニ適用ガアル、ソコデ先ヅ依然タル滌除權  
ノ御話ヲスル前ニ廣イ意味ニ於テハ矢張滌除權ト云ッテモ宜イモノガアル、ソレ  
ヲ御話申シマス

第一點ハ賣買ニ限ルコトデアアル、抵當不動産ニ付テ所有權又ハ地上權ノ賣買ノ  
アッタ場合、其場合ニ抵當權者カ買主ニ對シテ代價ノ請求ヲ爲シタ場合ニハ若シ  
買主ガ其代價ヲ支拂ウタナラバ最早抵當權者ハ其買主ノ權利ヲ認メナイト云  
フコトハ出來ナイ、買主ノ爲メニハ抵當權ハ消滅シタモノト看做サルルノデア  
ル、是ハ至當ノコトデアアルト思フ、抵當權者ハ畢竟物ヲ賣ッテ其代價ニ付テ辨濟ヲ

受ケルト云フノガ目的デアアル、競賣ニ付シタ所ガ不動産ガ必ズ高ク賣レルトハ  
限ラヌ、實際ノ事ヲ言フト競賣ハ相對ノ賣買ヨリモ寧ロ安ク賣レルノデス、故ニ  
相對ノ賣買ノアッタトキニ抵當權者ガ買主ニ向ッテ代價ノ請求ヲ爲スト云フノ  
ハ取リモ直サズ其代價ニ満足シテ居ルト云フコトデアアル、ソレデスカラ代價ヲ  
請求シテ受取ッタ其不足額ガアルカラト申シテ、ソレヲ受取ル爲メニ更ニ又不動  
産ヲ賣ッテ——縱令自分ノ權利ガ先ニ登記シテアルニシテモ更ニ其レヲ賣却シテ  
代價ノ中カラ不足額ヲ受取ラウト云フコトハ無理デアアル、殆ド是ハ二重ニ一ツ  
ノ物ニ付テ權利ヲ行フヤウナモノデアアル、ソレハ法律ガ許サヌ、地上權ハ所有權  
ト違ヒマシテ所有權ガ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ地上權ノ代價ヲ受取ッタカ  
ラト云ッテソレデ債權者ガ満足シテ居ルト云フコトハ無論ナイコトデアアル、故ニ  
此場合ニ於テハ更ニ抵當不動産ノ所有權ヲ賣ッテ、其代價ニ付テ殘額ノ辨濟ヲ受  
クルコトガ出來ル、去ナガラ地上權者ニ向ッテ抵當權者ガ代價ノ辨濟ヲ請求シタ  
場合ニハ恰モ其地上權ノ賣買ヲ承認シタモノト看ナケレバナラヌ、此場合ニ於  
テハ初ノ所有權ノ賣買ノ場合ニ於ケルガ如ク、詰リ債務者ニ代ッテ、或ハ抵當權設



定者ニ代ッテ其代價ヲ請求シタモノデアアル買主ハ之ニ辨濟ヲ爲シサヘスレバ其抵當權ハ最早自己ニ對シテ行ハルルコトハナイモノデアアルト斯ウ思フノデアアル、ソレデアアルカラ抵當權者ガ其不動産ヲ賣却シテモ地上權ハ矢張之ヲ留保シナケレバナラス、地上權ヲ害セザル範圍内ニ於テ之ヲ賣ラナケレバナラス、或ハスレバ競落人ハ地上權ヲ認メテ而シテ其所有權ヲ買取ラナケレバナラス、或ハソレダケ安ク買フデアアリマセウ、ソレハ仕方ガナイ、抵當權者ハ其競落代價ニ付テノミ不足額ヲ請求スルコトガ出來ル、地上權者カラ代價ヲ受取ッテ、ソレデ足ラス所ダケヲ競落代價ノ中カラ取ル、競落人ハ前ノ地上權即チ抵當權設定後ニ登記シタル所ノ地上權ヲ認メツツ不動産ヲ買取ラチバナラスト云フコトニ爲ル、尙ホ此事ハ抵當權ノ目的ガ所有權ニ非ズシテ地上權若クハ永小作權デアアル場合ニハ如何ニ準用セラルルカト云フト是ハ詰リ地上權者ガ抵當權ヲ設定シタル後ニ其地上權ヲ他人ニ讓渡シタトキ、ニハ抵當權者ガ其讓受人、其レガ買主デアルト假定シマシテ、買主ニ對シテ代價ヲ請求スルコトハ固ヨリ出來ル、サウシテ其請求ニ因ッテ最早抵當權ハ其者ニ對シテ消滅スル、永小作權ノ賣主モ亦同様

デアアル、是ハ準用スルノデスカラ丁度今マデ所有權デ申シタ事柄ガ此地上權若クハ永小作權ニ嵌ル、地上權ノ上ノ地上權、永小作權ノ上ノ地上權ト云フモノハアリ得マセヌカラ、即チ前ニ申シタ地上權ノ事ハ嵌リ様ハナイ、所有權ノ事ガ準用セラルル

以上ハ純然タル滌除ノ事デハナイ、併シ代價ノ辨濟ニ依ッテ抵當權ガ消滅シマスカラ廣イ意味ニ於テ之ヲ滌除ト云ウテモ差支ナイト思フ、是ヨリ純然タル滌除ノ御話ヲ致シマス

滌除ト云フノハ抵當不動産ニ付テ權利ヲ取得シタル第三者其權利ハ所有權、永小作權又ハ地上權デアアル、此等ノ權利ヲ抵當不動産ニ付テ取得シタル者ハ或條件ノ下ニ於テ直接ニ抵當權ヲ消滅セシムルコトガ出來ル、即チ不動産ヲ滌ヒ抵當權ヲ除クト云フノデ之ヲ「滌除」ト云フ、其條件如何、是ハ簡單ニ申スト云フト第三取得者(第三取得者ト云フノハ抵當不動産ニ付テ或權利ヲ取得シタ者、此問題ニ付テハ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル者、今後之ヲ第三取得者ト云フ)ガ一定ノ金額ヲ提供シテ其金額デ抵當權者ガ承諾シタナラバ其レニ依ッテ



抵當權ガ消滅スルノデアル、賣買ノ場合ニハ通常ハ其代價ヲ提供スル、不動産ヲ  
抵當權ノ目的ト爲シタ場合ニ其不動産ヲ買ッタ人ハ賣買契約ニ因ッテ定ッテ居ル所  
ノ代價、一萬圓デ買フト云フナラバ其一萬圓ヲ提供スルト云フノガ普通デアル、  
ケレドモ此代價ヲ提供スルト云フコトガ條件デハナイ、其譯ハ時トシテハ第三  
取得者ガ不當ニ高ク不動産ヲ買フコトガアル、サウシテ代價ノ全部又ハ一部ヲ  
既ニ賣主ニ拂フコトガアル、是ハ稀ナ場合ダケレドモサウ云フコトモ想像シ得  
ラルル、例ヘバ誤ッテ抵當權ノアッタコトヲ知ラナカッタトキニ、斯ウ云フ事ハ随分  
アリ得ル、斯様ナル場合ニ於テハ第三取得者ガ滌除ヲ行ハウト思フノニ賣買ノ  
代價ヲ提供スルト云フコトハ苦シイコトデアル、二重拂ヲシナケレバナラヌ譯デ  
アル、サウシテ若シ抵當權者ガ其不動産ヲ公賣シタナラバ到底其直段デハ賣レ  
ナイ、即チ一萬圓デ買ッタケレドモ其全部又ハ一部ハ既ニ拂ウテ居ル、所デ之ヲ公  
賣ニ付シタナラバ八千圓ニシカ賣レサウモナイト云フ、其トキハ第三取得者ハ  
八千圓シカ提供シナイデアラウト思フ、ソレデ差支ナイ、是ハ併ナガラ稀ナ場合  
デス、ト云フモノハ抵當權ノ存シテ居ル場合ニハ登記デ以テ知レル、其知レテ居

ル以上ニハ代價ヲ賣主ニ拂渡スト云フコトハ通常ハシナイ、ケレドモ此場合ト  
反對ノコトハアリ得ル、買ッタノハ八千圓デ買ッタケレドモソレハ大變安イ、公賣  
ニ付シテモ或ハ一萬圓ニ賣レルカモ知レスト云フコトガアル、此場合ニ於テハ  
第三取得者ガ八千圓ヲ提供シテモ抵當權者ガ承知シサウモナイ、故ニ此場合ニ  
ハ一萬圓ヲ提供スルト云フコトハ少シモ妨グヌ、況ヤ讓受人ハ必ずシモ買主デ  
ハナイデスカラ賣買代價ト云フモノハナイコトガアル、或ハ交換デアル、或ハ贈  
與デアル、斯様ナル場合ニ於ケル第三取得者ハ自己ガ相當ト認ムル金額ヲ提供  
スルノ外ナイ、ソレカラ第三取得者ガ地上權若クハ永小作權ノ取得者デアルト  
キニ於テハ、サウシテ抵當權ハ所有權ヲ目的トシテ居ル場合ニ於テハ到底地上  
權ヤ永小作權ノ賣買代價ヲ提供シタ所ガ抵當權者ガソレヲ承知スル氣遣ハナ  
イ、必ず所有權ノ價ニ相當スル金額ヲ提供シナケレバナラヌ、此等ノ金額ヲ提供  
シタ場合ニ於テ抵當權者ガソレヲ承諾スル、即チ其金額ニ満足スルト云フトキ  
ニハソレデ直チニ滌除權ガ行ハルル、若シ之ヲ承諾シナイト云ッタラバドウスル、  
其トキニハ抵當權者ハ必ず増價競賣ト云フモノヲ請求シナケレバナラヌ、詰リ



増價競賣ヲ請求シナイナラバ必ズ其提供ヲ承諾シナケレバナラヌ、増價競賣トハ如何ナルモノデアアルカ、是ハ讓受人ガ提供シタル金額ヨリモ一割以上高ク賣ルト云フ約束ヲシテ、サウシテ其競賣ヲ請求スルノデアアル、第三取得者ガ一萬圓ヲ提供シタル場合ニ於テ抵當權者ハ必ズ是ハ一萬千圓ニ賣テ見セル、ソレヨリ高ク賣ルトモ必ズ安クハ賣ラヌト、斯ウ云フコトヲ言ハナケレバナラヌ、ソレデ増價競賣ト云フ、ナゼサウ云フコトニ爲テ居ルカト云フト是ハ先ヅ法律ハ一割位ハ費用ニ掛ルモノトシテアル、デスカラ一割以上高ク賣レヌケレバ競賣ニ付シテモ詰リ損デアルト看テ居ル、ソレデ一割以上ノ増價競賣ト云フコトニ爲ル、サウシテ是ガ間接ニ滌除ヲ獎勵スルコトニ爲ル、法律ノ見ル所ニ依レバ苟モ抵當權者ニ損害ヲ加ヘナイ限ハ滌除ヲ行ハシメタ方ガ宜イ、第三取得者ニ取テハ折角買ッタモノデアアル、折角買ッタモノデアアル、之ヲ取上ゲラルルノハ誠ニ辛イノデアアル、ドウゾソレハ抵當權者ニ遣リタクナイト、斯ウ云ラノガ人情デアアル、抵當權者ノ方デハドウカト云ヘバ詰リ金ヲ貰ヘバ宜イノデアアル、競賣ト云ツタ所ガ詰リ賣ルノデアアル、故ニ代價サヘ貰ヘバソレデ損害ヲ受ケルコトハナイ、サウスル

ト相當ノ代價ヲ債權者ガ受取ルコトガ出來ルナラバ態、抵當不動産ヲ競賣ニ付スルト云フヤウナコトハセヌ方ガ雙方ノ利益デアアルト、斯ウ法律ハ看テ居ル、ソレデ滌除ト云フモノヲ許シテ居ル、然ルニ若シ其條件ニ競賣ヲ請求スルコトガ出來ルモノトシタナラバ抵當權者ハ或ハ私慾ノ爲メニ眼ガ眩ンデ、マダ是ヨリモウ少シハ高ク賣レサウナモノデアアルト云フ慾心カラ溢ニ、競賣ヲ請求スル、或ハ感情ノ上カラ第三取得者ガ抵當權ヲ消滅サセタイト云フガ、是ハドウモ不都合デアアル、少シ位損ヲシテモ宜イカラ競賣ニ付シテヤラウト云フヤウナコトモナイデモナイ、要スルニ何等ノ制限モ附サナカッタナラバ滌除ト云フモノハ行ハレヌコトガ多カラウ、サウシテ實際競賣ト云フコトニナルト今申上ゲタ通りナカナカ費用ガ掛ル、不動産ノ競賣ハ猶更然リ、ソレデ法律ハ必ズ一割位ハ掛ルト看テ居ル、故ニ少クモ一割位高ク賣ラナケレバ折角競賣シタ甲斐ガナイ、一萬圓提供シタ場合ニ一萬圓ニ競賣スル、サウスルト入費ダケ損、而シテ其責任ヲ競賣ヲ請求シタル抵當權者ニ負ハシメナケレバ誰ガ其損失ヲ負擔スル、第三取得者ハ折角一萬圓出シテソレデ抵當權ヲ消滅サセタイト云ツタノニ、ソレヲ許サヌ、サ



ウシテ競賣シタ其結果一萬圓マデ取レナカッタ、第三取得者ハヒドク其利益ヲ害サレル、サウシテ競賣ヲ請求シタ抵當權者ハ自業自得デアアルガ、他ノ債權者ハ迷或デアアル、若シ一萬圓ヲ獲タナラバ外ノ債權者ガ満足ニ辨濟ヲ受ケタカモ知レヌ、九千圓デハ甚ダ不満足ノ辨濟ヲ受ケルト云フコトニ爲ルカモ知レヌ、念ノ爲メニ申上ゲマスガ、此増價競賣ヲ請求スル抵當權者ト云フモノハ必ズシモ第一ノ抵當權者デハナイ、第二ノ抵當權者デモ第三ノ抵當權者デモ増價競賣ヲ請求スルコトガ出來ル、所デ假ニ抵當權者ガ二人アル、第一抵當權者ノ債權ハ一萬圓デアアル、ソコヘ丁度一萬圓提供シタ、其儘デ濟ムト第一ノ抵當權者ハ完全ナル辨濟ヲ受ケルコトガ出來ル、所ガ第二抵當權者ガソレデハツマラヌ自分ハ何等ノ辨濟ヲモ受ケルコトガ出來ヌ、之ヲ競賣シタラバ一萬一千圓位ニ賣レサウナモノダ、サウスレバ自分モ千圓位貰ヘルト、斯ウ思ッテ競賣ヲ請求シタ、豈ニ圖シヤ九千圓ニシカ賣レナカッタ、又ハ一萬圓ニ賣レテモ費用ヲ引クト九千圓シカ殘ラヌ、サウスルト第一ノ抵當權者ハ其爲メニ千圓ダケ損ヲシナケレバナラヌ、故ニ是ハ競賣ヲ請求シタ債權者ニ十分ノ責任ヲ持タセナケレバナラヌ、理窟

ニ於テモサウデアアルシ、又滌除ト云フモノヲ必要ト認メタ方カラ考ヘテモ此ノ如キ責任ヲ競賣請求者ニ持タシテ置カスト云フト濫ニ請求スル虞ガアルト云フノデ増價競賣ヲ請求シタ抵當權者ハ若シ一割以上高ク賣ルコトダ出來ナカッタナラバ自分ガ引受ケル、自分ガ買受ケル、一割増ノ代價ヲ以テ即チ一萬圓ノ提供ノアツタトキナラ一萬一千圓デ自分ガ引受ケルト云フ約束ヲシナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニ爲ッテ居ル、ソレニ付テハ擔保モ供サナケレバナラヌ、唯之ニ對シテ抵當權者ガ外國人デアツタトキニハ今日ノ法律デハ外國人ハ土地ノ所有權ヲ取得スルコトガ出來マセヌカラソレデ特別法ガ出來マシテ、明治三十二年ニ特別法ガ出來マシテ、ソレニ依ッテ外國人ガ抵當權者デアル場合ニハ自ラ其不動産ヲ買受ケルコトガ出來ヌカラ詰リ實際賣レタ代價トソレカラ第三取得者ガ提供シタル金額ニ一割ヲ加ヘタルモノトノ差額ヲ抵當權者ヲシテ負擔セシムルト云フコトニ爲ッテ居ル

是ガ滌除ノ一般ノ仕組デアツテ、細カイ手續ハ法律ニ規定シテアリマスケレドモ、其レハ法文ヲ御覽ニナレバ分リマス、是デ追及權ノ御話ヲ了リ、又抵當權ノ效力



セ  
4

ノ御話ヲ概略了リマシタ、此以上ノ事ハ細目ニ涉リマスカラ此講義ニ於テハ述  
ベマセス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並ぶ）

和三八高





清史

清

史

清

藏

書





和作法律學友友法  
仁井田益太郎著

仁井田益太郎著

セ  
41

034052-000-6

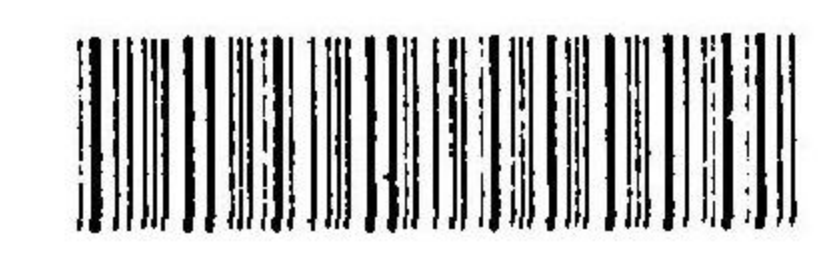
セ-4イ

民法

仁井田 益太郎 / 等述

M36?

BBL-0485





七  
41

圖書

圖書

圖書

和佛法律學  
三度高寺  
校  
美  
社

二井田益太郎